

# 真夏の「オープン・キャンパス」日記

人文社会学部 現代社会学科 安井 佑

山田先生が以前紹介したとおり、8月1日に人文社会学部のオープン・キャンパスが開催された。今年から新たな試みとして公開ゼミを行うことになり、私も堀江先生のゼミの一員として「お手伝い」をさせていただいた。堀江ゼミは「男と女、得なのはどっち??～『らしき』に縛られる人々～」というテーマで午前と午後の二回、高校生を交えてゼミを行った。つまり、山田ゼミの強力なライバル(?)であったわけだ。

私たちは、このテーマを選ぶ際に考慮した点が2つあった。1つ目は高校生にも比較的分かりやすいテーマであること。そして、現代社会学科に入学すると、必ず耳にすることになる「ジェンダー」とはいったい何なのかを少しでも知ってもらおう。2つ目は何よりも高校生に楽しんでもらえるという点である。

約2週間前からメンバー同士で数回の打ち合わせを行い、ゼミを盛り上げる資料を準備して、いざ公開ゼミへと挑んだ。

当初は、ゼミを見学しに高校生が来てくれるか心配であったが、いざ蓋を開けてみると多くの人が参加をしてくれた。

我々は6人でゼミを行ったのだが、(堀江ゼミから4人、他のゼミから2人「助っ人」として参加してくれた)最初は大勢の高校生を前に少々緊張気味であった。しかしながら、討論が活発化してくると徐々に調子が出てきて、普段の「楽しい」ゼミになってきた。途中、高校生の意見も聞くことができ、我々にとっても大変参考になった。

また、公開ゼミ終了後も何人かの高校生から、大学の講義について、受験勉強や入試について、あるいはコンパ(!)について熱心な質問を受けた。久しぶりに高校生と話をすることによって、自分の高校時代を思い出してしまった。

いったい、どれほどの高校生がゼミのテーマについて理解してくれたか分からないが、少なくともゼミの雰囲気を楽しむことはできたと思う。今回のオープン・キャンパスに参加してくれた人が人文社会学部(特に現代社会学科)で大学生活を送りたいと思ってもらえれば幸いである。そして、その中から自分たちの後輩になってくれる人が大勢いることを期待したい。来年も機会があれば、より魅力を増したゼミを高校生に披露したいと思う。

オープン・キャンパスは、私たち大学生にとっても非常に有意義で楽しい1日であった。